

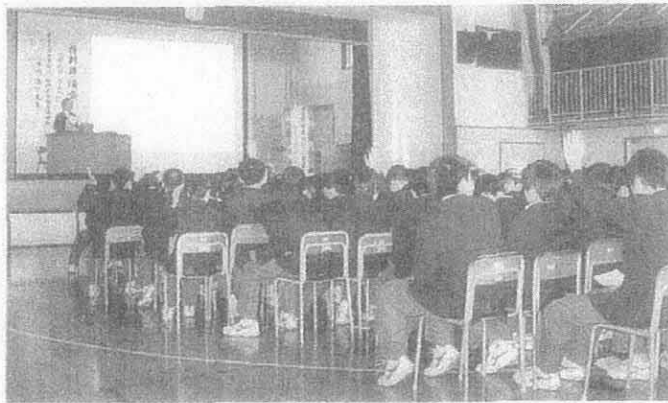
# 失望せず向き合うために

日本人の3人に1人の命を奪う、がん。しかし、がんに対する国民の理解は十分ではないとして、厚生労働省は10月、普及啓発懇談会をスタートさせた。懇談会には教育の専門家も参加、学校でがんを教えることも検討される。座長を務める東京大学医学部付属病院緩和ケア診療部長の中川恵一准教授は、学校での「がん教育」の重要性を説く。(猪谷千香、写真も)

「今、がん患者が増えていきます。日本人の2人に1人はがんになり、3人に1人が死んでいます。怖いと思うかもしれないけれど、自分の体から出てくる細胞でもあります。では、がんとはどういう病気なのだろう?」

11月初旬、東京の国立市立国立第一中学校で全校生徒530人を前に、中川准教授の授業が始まった。がん細胞がどのようにできるのか、がん患者が増えてくる原因や、最新の治療方法を

## 学校で「がん」教育



がんについて講演会を行う東京大学医学部付属病院の中川恵一准教授  
 東京都国立市の国立第一中学校

**進む国の対策** 現在、国を挙げてのがん対策が進んでいる。平成19年人口動態統計によると、がんで亡くなった人は33万6468人で、全死因の30.4%にあたる。国民の健康に重大な問題として、同年4月に「がん対策基本法」を施行。がんの予防や早期発見の推進、専門医の育成や拠点病院の整備、研究や医薬品、医療機器の早期承認のための整備などを基本施策としている。これを受け、厚生省ではがん対策推進のための21年度予算として、20年度よりも26億円増の262億円を要求している。

## 予防と早期発見を啓発

などを図版を使いながら、やさしく解説していく。「がんは治らない病気ではなく、6割は完治します。命を落とさないために

は、予防と早期発見をしなければなりません」この授業は、同校が中川准教授に依頼し、特別講演会として開かれた。久家義

久校長は「がんになったとしても、失望するのではなく、よりよく生きるためにはどうしたらいいのか。子供たちにしっかり向かい合っほしい」と思い、講演をお願いしました」と話す。中川准教授は授業の中

で、がんについて解説した自著「がんのひみつ」を自費で子供用に再編集したパンフレットを配布。講演会もボランティアで行った。1月に都内の高校でも同様の授業を行い、「依頼があれは、今後も引き受けた」とする。

中川准教授は「例えば、子宮頸がんはウイルス感染によって発症する。米国では学校で教えているので、割の人が知っているが、日本ではほとんど知られていません」と、がん教育の必要性を訴える。

今後、子供たちのがん教育をどうすべきか。厚生省は10月、がんに対する正しい理解を促進させるため、識者による「がんに関する普及啓発懇談会」を発足させた。学校でのがん教育実施も視野に、教育の専門家も参加している。

日本は「がん大国」といってもよいほど、患者数は多いにもかかわらず、理解は深まっていないという。「子供たちにとっても、将来はかかわってくる可能性の高い病気。相手(がん)を知らなければ正しく対処できない。若いうちから、どのような病気を教えることが大事です。先生たちも、がんのことをもっと知ってほしい」

Green Tourism  
 出掛けよう!  
 グリーン・ツーリズムの旅  
 ゆったりのんびり田舎体験  
 体験民宿、農家レストラン、直売所、旬情報...  
 グリーン・ツーリズム 検索  
<http://www.ohrai.jp/gt/>

# 予算倍増、検診率50%

## 韓国のがん対策

韓国のがん対策が今、注目されている。この数年でがん検診の受診率を急上昇させることに成功し、今年には50%に達した。政府が無料検診を拡大させる一方で、民間のキャンペーンも活発だ。米国では長年のがん対策と高い乳がん検診受診率で、死亡率の低下という成果を上げる。日本では政府が掲げる目標「がん検診受診率50%」の到達への道が見えてこない。

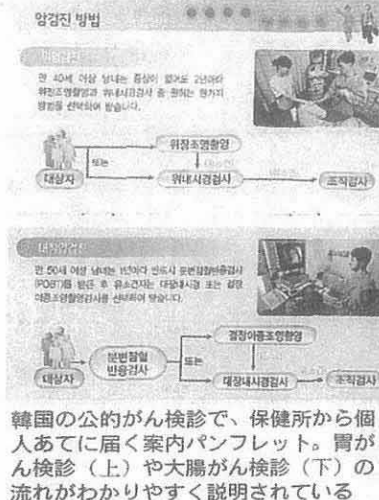
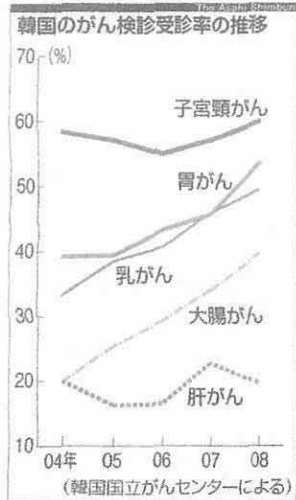
(編集委員・浅井文和、岡崎明子)



がん予防検診センターで大腸の内視鏡検査をする医師ら(ソウル郊外の韓国国立がんセンター)、浅井文和

## 無料対象者が半数に拡大

ソウル市郊外にある韓国国立がんセンターはがんの専門治療と研究で知られる。07年6月、最新鋭設備を備えたがん予防検診センターを開設した。乳房X線撮影(マンモグラフィ)や胃の内視鏡検査など、さまざまな検診を一度に受けることができる。禁煙指導など予防にも力を入れている。標準的な検診費用は男性105万円(約7万円)、女性の対象者として5種類の検診



ソウル市郊外にある韓国国立がんセンターはがんの専門治療と研究で知られる。07年6月、最新鋭設備を備えたがん予防検診センターを開設した。乳房X線撮影(マンモグラフィ)や胃の内視鏡検査など、さまざまな検診を一度に受けることができる。禁煙指導など予防にも力を入れている。標準的な検診費用は男性105万円(約7万円)、女性の対象者として5種類の検診

率に比べてほぼ倍増した。乳がん検診者でもある看護師の金秀・延世大看護学部助教授は「数年前はがん検診への国民の関心は低かった。今は関心が高まって、検診の無料化が進み、がん患者への医療費補助も拡充して治療を受けやすくなった」という。

率に比べてほぼ倍増した。乳がん検診者でもある看護師の金秀・延世大看護学部助教授は「数年前はがん検診への国民の関心は低かった。今は関心が高まって、検診の無料化が進み、がん患者への医療費補助も拡充して治療を受けやすくなった」という。

## 日本は20〜30%

一方、日本では昨年、政府が「がん対策推進基本計画」を決め、がん検診受診率を5年以内に50%以上にする目標を掲げる。しかし、受診率は乳がん検診が20〜30%など、胃・肺・大腸・乳・子宮がんの検診で20〜30%程度だ(07年、国民生活基礎調査)。

特に、乳がんは早期発見・治療による効果が大きく、力点が置かれた。90年には「乳がん・子宮がん予防治療法」が成立し、低所得者向けの公的医療保険「メディケイド」の加入者も無料で検診が受けられるようになった。米国対

特に、乳がんは早期発見・治療による効果が大きく、力点が置かれた。90年には「乳がん・子宮がん予防治療法」が成立し、低所得者向けの公的医療保険「メディケイド」の加入者も無料で検診が受けられるようになった。米国対

がん協会は、40歳以上の女性は毎年、マンモグラフィ検診を受けるよう勧めている。受診率は87年の39%から00年は70%に上昇。その結果、死亡率は90年から04年にかけて毎年2〜2.2%下がった。

がん協会は、40歳以上の女性は毎年、マンモグラフィ検診を受けるよう勧めている。受診率は87年の39%から00年は70%に上昇。その結果、死亡率は90年から04年にかけて毎年2〜2.2%下がった。

がん協会は、40歳以上の女性は毎年、マンモグラフィ検診を受けるよう勧めている。受診率は87年の39%から00年は70%に上昇。その結果、死亡率は90年から04年にかけて毎年2〜2.2%下がった。

がん協会は、40歳以上の女性は毎年、マンモグラフィ検診を受けるよう勧めている。受診率は87年の39%から00年は70%に上昇。その結果、死亡率は90年から04年にかけて毎年2〜2.2%下がった。

## 国あげて乳がん対策

### 米国

米国では71年、当時のニクソン大統領が「がんとの戦い」を宣言し、がん対策法が成立して以来、国を挙げてがんによる死亡率を下げることに取り組んでいる。

米国では71年、当時のニクソン大統領が「がんとの戦い」を宣言し、がん対策法が成立して以来、国を挙げてがんによる死亡率を下げることに取り組んでいる。

米国では71年、当時のニクソン大統領が「がんとの戦い」を宣言し、がん対策法が成立して以来、国を挙げてがんによる死亡率を下げることに取り組んでいる。

米国では71年、当時のニクソン大統領が「がんとの戦い」を宣言し、がん対策法が成立して以来、国を挙げてがんによる死亡率を下げることに取り組んでいる。

# がん征服を目指して

～がん検診で早期発見・早期治療を～



東京大学医学部付属病院放射線科准教授  
緩和ケア診療部長  
中川 恵一 先生

## がん検診で早期発見・早期治療を

### がん検診で早期発見・早期治療を 今すぐできることが「がん検診」

欧米では減少しているがんの発生率だが、日本では増え続けている。その原因の1つが「がん検診」の受診率の低さ。早期発見・早期治療の力となり、がん検診の重要性について、東京大学医学部付属病院放射線科准教授、緩和ケア診療部長の中川 恵一先生に、日本のがん検診受診率と早期発見・早期治療の重要性を聞いた。

がんは「体の老化」の一種。誰もがリスクを抱えている。増え続けているがんは「体の老化」の一種。誰もがリスクを抱えている。

増見 日本人の2人に1人が生涯にがんになり、3人に1人ががんによって亡くなるという数があります。にもかかわらず、がんに対する知識が少なく、漠然とした不安を抱えている人が多いのです。まず「がん」とは何なのか、わかりやすく教えてください。

中川 「がんを一言で言うことは難しい。細胞が分裂して、その過程でDNAに傷が入ると、突然変異が起きます。これががん細胞の発生の始まりです。細胞は毎日約500億個も死んでいきます。通常は免疫細胞が退治してくれます。しかし、退治しきれず残った細胞も生き残ると、1個が2個、2個が4個と倍々増えていきます。増えすぎると、がんになります。がん細胞は免疫細胞に逃がれ、増え続けます。また、がん細胞は血管を透過して、他の臓器に転移します。転移がんは、元の臓器より治療が難しくなります。



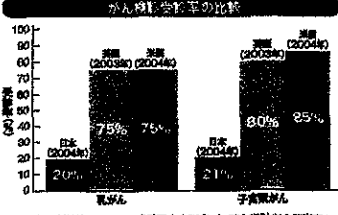
中川 恵一先生(左)、遠見知明(右)さん

増見 がんの検査方法はさまざまありますが、がん検診で早期発見すれば、治療の負担も軽くなります。100カ国以上のデータが使用されており、米国や欧州などは無料での検診を受けられます。日本でも、徐々に検診が普及し始めています。日本と海外の検診の違いは何ですか。

中川 がん検診は「がん」を予防するための検診です。がんは「がん」を予防するための検診です。がんは「がん」を予防するための検診です。がんは「がん」を予防するための検診です。

例えば「化学療法」は抗がん剤を使った治療法です。がんは「がん」を予防するための検診です。がんは「がん」を予防するための検診です。がんは「がん」を予防するための検診です。

増見 がん検診は重要なことですが、誰もが受けたいとは思っていません。がん検診は重要なことですが、誰もが受けたいとは思っていません。がん検診は重要なことですが、誰もが受けたいとは思っていません。



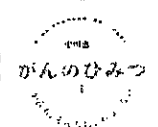
増見 「がん検診は重要なことですが、誰もが受けたいとは思っていません。がん検診は重要なことですが、誰もが受けたいとは思っていません。がん検診は重要なことですが、誰もが受けたいとは思っていません。」

### 「がんに関する普及啓発懇談会」発足

がんの予防、検診の重要性、がん治療、緩和ケアなどを広く知ってもらうために、東京大学医学部付属病院の「がんに関する普及啓発懇談会」が発足しました。東京の中川 恵一先生をはじめ、07年にがんを克服された山田静江さん、がん検診のバイオフィーターであるアフラックの代表取締役の永江美穂子さん、遠見知明さんなどのメンバーが、がんの普及啓発活動に取り組んでいます。

### 『がんのひみつ』プレゼント

2人に1人が、がんになる。世界一の「がん大国」ニッポン。がんを知るためのバイブル、中川 恵一先生『がんのひみつ』(新田出版社)を抽選で100名様にプレゼント



（主催）新田出版社・（協賛）東京大学医学部付属病院がん検診センター  
（共催）がんのひみつプロジェクト  
（協力）がんのひみつプロジェクト  
（協力）がんのひみつプロジェクト  
（協力）がんのひみつプロジェクト